

つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部
2019年 12月英語特集号

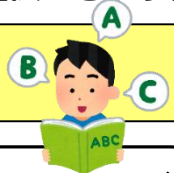
難聴児と英語 ~How do they learn English?~

今月号ではきこえにくい子どもたちの英語をテーマにしたいと思います。

奈良の難聴学級を卒業し、現在英語を使い仕事をされているKさんにインタビューをしました。Kさんは生まれつき90dB程度の聴覚障がいがありますが、TOEICのリーディング380点という実力をお持ちです。(TOEICはリスニングとリーディング各495点の合計点で評価されます。聴覚障がい者はプライオリティサポート申請により、リーディングのみの受験を選択できます。)



最近、英語の学習法について本校への問い合わせが増えていました。Kさんが英語学習で困っていたことを教えてください。



英語学習で困ったことは、音声による学習が困難なため、きこえる人よりも単語とフレーズの暗記にとっても時間を要し、短いスパンで次々と出てくる単語を覚えることが大変だった。また、通常学級で外国人講師によるネイティブ講座が週に一度あったが、英語の雰囲気もつかめず、スピーキングも正しくできているかどうか不安だった。



今学校時代を振り返って、有効だったと思う支援はありますか？

リスニングに関しては、きこえないため成績には関与しない形で授業を受けていた。その代わりにライティング、リーディングに関しては他の学生の2倍こなし、リスニングの代替点数にあてた。

リスニングではないが、自身の声はできるため、スピーキングテストは受けていた。単語帳に発音記号がついていたので、先生に学習するすべての単語に発音をふってもらい、放課後にそれぞれの正しい発音をマンツーマンで練習した。きこえにくい子どもにとって、英語におけるマンツーマンの訓練はとても有効だと思う。その理由は、些細な間違いもすぐに発見することができ、短い時間で反復練習をすることができるため。スピーキングに限らず、ライティングもその場で添削をしてもらった方が記憶に新しく残り、夜には学習した内容をすぐに復習することができた。



英語学習で工夫したことを教えてください(英語の口形、コミュニケーション等)

自分で工夫したことは、特に暗記と英語のニュアンスを掴むところに重点を置いた。文法を正しく使えることは、英作文の幅が大きく広がる。また、英語にはいくつかの典型フレーズがあり、ニュアンスとともに覚えておくと英作文や実施のやりとりでとても話が広がりやすくなる。そのため、まずは単語と基礎となる5文型は徹底的に扱えるように努力した。コミュニケーションに関しては、私の時代からはSNSが発達したのでチャット機能などを生かし、実際に高校の留学生の友人と英語で書いてやりとりをしたり教えてもらったりした。ネイティブの方とメッセージのやり取りをすることで、正しい英語の使い方も知ることができ、さらに英語の表現が広がったように思う。またTED(Technology Entertainment Design)というアメリカのメディア番組のサイトが大変役に立った。英語と日本語の字幕が同時に出て、しかも品詞が色分けされて表示させることもできてわかりやすい。難聴の後輩たちでこれを利用している人も何人かいる。



国際関係の会社で働いており、英語を使う機会ははとて多く、今までに学んだ文法や典型文をよく使います。ビジネス英語は学生の時に学んだことの応用で、中高英語の基礎ができていればさほど怖くはありません。実際に、外資系の会社とのやり取りも英語で行い、きれいな英語でメールを送ることができたときには、取引先に英語が読みやすく、伝えたいことが頭に入りやすいと言ってもらえました。英語は世界で最も使われている言語なので、自分の強みにしておくと海外旅行に行った時でも楽しむことができますよ。一度にたくさんのを始めるのは大変なので、一つ一つを積み重ねながら確実にできることを増やしていくと、いずれは今は難しい英語も強みになるでしょう！

小さい頃から、国際的な視野で関わる仕事を目指していたKさん。夢を実現し、海外での研修で英語を使っている姿を見て、その努力には感心しています。日本でも、社内公用語が英語という企業が増えてきています。これからも英語を学ぶ難聴の子どもたちの先輩として、国際的に活躍するパイオニア的存在として、今後も活躍していつてくれることを期待しています。

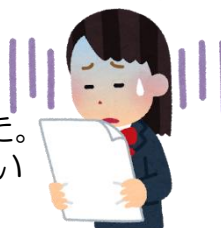


英語の配慮と評価について

①英語の配慮

上記のインタビューに答えてくださったKさんは90 dB程度の聴力とお話しました。

しかし、実際に難聴のお子さんのきこえ方は様々で、どのような配慮をすればいいかという問題は一概にはまとめるのは難しいものを感じています。



筆者は当時60～70 dBの中等度難聴でしたが、特にCD再生によるリスニングが大変きこえにくく、理由が「**聴覚障がいによるものなのか、単なる勉強不足によるものか**」明確にできないモヤモヤ、評価への理不尽さを感じておりました。結論として、学校側に要請したのは、「聞き取りの力にハンデがある。きこえる生徒と同じ評価基準では不利益を被るため、リスニングは成績の対象にしないこと」でした。

これは、2006年にセンター試験で英語リスニング試験免除の設置がとられる前の出来事です。

小学生の頃には、すでに公立高校入試でリスニングが導入されるという噂が流れ、母は一抹の不安を感じたようです。そして、筆者はリスニング試験の必要がない中学受験を選択し、そのまま併設の高校へ進学することになりました。今のように地域支援も行われていない時代であり、それほどにリスニング導入の不安はとて大きいものでした。



この頃から不利にならない評価方法について、学校と話し合っていました。その結果、代替による筆記試験にしたとしても、「聞こえる生徒と対等の条件にならないため、リスニング領域は評価の対象にしない」ことに決まりました。

音楽の歌唱テストでの音程も同様です。この話し合いの過程では、「聞こえる人でもリスニングが苦手な人がいる。逆差別ではないのか？」
「音痴な人だっているじゃない。気にしなくても大丈夫よ！」

と、一部の先生からなかなか理解を得られず、「聴覚障がいというのは、どんなに努力してもきこえる人と同じじゃない！聴力が軽度でも感音性難聴は元々音が歪んできこえるんだよ！」と、泣きながら必死に説明したのも今となっては良き思い出です。

さて、現在教育相談に来る子どもたちのリスニングの状況を聞くと、以下のように、子どもの実態に応じて、各学校で色々工夫されていることがうかがえます。

- ◎ロジャー等を使い、**教員の口形**を見ながらリスニングを聞く。 ◎**視覚的教材**を生かす。
- ◎ロジャー等をCDデッキの近くに置いたり、直接つないでいたりして聞く。
- ◎CDの音源はそのままに、子どもにとって**一番きこえやすい音量**に調整する。
- ◎リスニングテストを**別室**で受ける。 ◎音声と同じ速さで**テロップ(字幕)**を表示する。
- ◎CDが流れている間と同じ内容の文を読んで、設問に答える。**(ペーパー置換)** etc...

例えば、以下の方法を別室で試したとします。

- ①ロジャーでCDの音声をきく。
- ②ロジャーを使い、教員が肉声で読み上げるのをきく。(口形を見る)

2つの異なる方法を比較し、かなりの成績差(①<②)が生じた場合、②のほうが子どもに適していることとなります。このように、学校と本人で話し合いながら、不利益にならないようにリスニング方法を選択できればいいと思います。

新潟の難聴学級教諭の白井先生の話。入試で肉声提示の際に以下のような事例があったそうです。

- 1) 複数の教員での対応になる。男の声は男性教諭、女の声は女性教諭が読み上げる。
- 2) 提示時間が長くなることがある。(CDから流す場合は、他の試験会場と全く同じ条件になる)

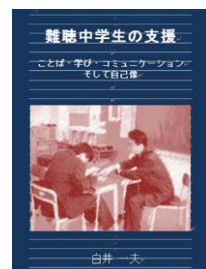
1)に関して、ロジャーのセッティングの工夫が必要で、発信機を真ん中におきそれに向かって話していただくように依頼する必要があります。そこを本人がきちんと試験会場でも説明する必要があります。

2)に関して、教員が丁寧に読み上げてくれたため、リスニングに時間がかかりすぎ、筆答の時間に食い込んでしまうことがありました。肉声提示の場合には「リスニングの時間とそれ以外の解答時間を分割しての実施」を合わせて要望する必要があると考えておられるとのことでした。

(参照: 白井一夫「難聴児の思春期を考えるページ」<http://nanchohb.web.fc2.com/>)

「難聴児の思春期を考えるページ」には、主に難聴中学生への支援についてまとめられています。その中のNEWHSのコーナーに、10年間にわたる難聴生徒への英語指導の取り組みが紹介されており、フォニクストレーニングや英語教材、講演内容などがたくさん掲載されています。

今年の11月に「難聴教育に携わるスタッフのための英語指導スキルアップ講座」が行われました。また次回の案内が出る予定がありますので、興味のある方はぜひHPをご覧ください。



近年はロジャー等の補聴援助システムやその他の機器の活用により、きこえにくい子どもたちにとって支援の選択肢が広がったように感じています。

他の生徒と同室か別室か？CDか肉声か？音声か文字か？実施か免除か？

受験時や授業時の配慮および進学先への引継ぎにおいて、普段の授業で行っていることが非常に後の参考にされるため、様々な方法を試みながら子どもに合った支援を考えていく必要があります。また彼らにとって正当な評価につなげていくためにも、本校も一緒に考えていければと思います。

②英語の評価

上記のように試行錯誤しながら取り組まれている中、評価について悩まれることもあるのではないのでしょうか。

京都の固定制難聴学級では、以下のように基準を置き換えているところがありました。

◎観点「理解の能力」(基準…自然な口調で話される英語の内容を聞き取ることができる)



◎観点「理解の能力」(基準…限られた時間の中で、書かれている英語を読み取り、理解することができる)



元担任の先生によると、「【聞こえないからリスニングの評価はC】ではなく、【聞こえないけど真面目にレポートを出したからA】という心情的な評価でもなく、客観的に説明のできる評価の具体的な方法」として考えたのだそうです。奈良県立ろう学校では、リスニングテストによる評価は一切行っておらず、リーディングとライティングが主な評価の対象になっています。視覚教材やSE (Sign English) などを使いながら、「目で見える英語」を大切にしています。

聞こえる生徒と同じ基準ではなく、難聴のお子さんに対してどのような基準に置き換えるのか、本人に説明して納得してもらえる評価ができるといいですね。

中学校よりも難しい？小学校の外国語活動



ある小学校での外国語活動。音楽に合わせて、「Head(頭)、Shoulder(肩)、Stomach(お腹)、Leg(足)〜♪」と身体の部位をおさえる学習をしているところでした。

聞きなれないネイティブの先生の声、しかも歌っている！バックにCDの音楽！周りの子どもたちは楽しそうにガヤガヤ・・・。

これは、難聴の子どもにとって、非常に聞きづらい教室環境になります。

ロジャーを使えば、理解できることもあるのですが、難聴の子どもはどのように理解して動くかな？自分だったらどのように取り組むだろうか？と思いながら、授業を見ていました。

2020年度から正式に教科化される小学校の外国語活動。

中学生たちに聞くと、次のような支援があればわかりやすいという意見をいただきました。

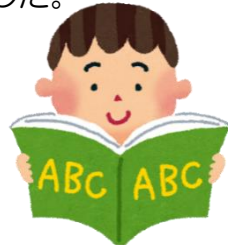
- ◎イラストやフラッシュカードなどの**視覚的教材**があると、ヒントになってわかりやすかったと思います。
- ◎**前もって授業に出る英単語と発音を教えてもらってから授業に参加すると**、今まで聞こえなかった英語が聞こえてくるようになりました。
- ◎教科書の単語に**フリガナをふってもらった**ので助かりました。
- ◎ALTがジェスチャー豊かな人で、**表情や身振り**を交えて話してくれて良かったです。
- ◎顔をこちらに向けて、**口形をはっきり**を見せてくれたので読み取りやすかったです。
- ◎ALTが話した英語を録音したものを**何度も繰り返して聞いて慣れる**ことができました。

こうして見てみると、視覚的支援を効果的に感じているお子さんが多いと思いました。

Kさんもそうでしたが、口形や文字、映像など目で見てわかる英語は聞こえない子どもたちにとって大切な支援だと思えます。

難聴児は、**初めて聞く発音や言葉を聞き取ることが苦手**なのです。

そのため、前もって当日の授業で学ぶ単語や文をおさえておいたり、視覚的教材を活用したりすると授業に参加しやすくなると考えられます。



英単語にフリガナをふるることについて、聞こえる子どもの発音習得の妨げになるという見方もあるようで、授業では使いたがらない先生もいらっしゃいます。しかし、発音記号もない小学校ではなおさら、きこえない子どもにとってフリガナは必要ではないかと思えます。授業で掲示しない場合は、教科書や別のプリントなどに記入するなど個別に対応していただければと思います。(最初にフリガナから入り、何度も正しい発音を聞いたり声に出したりして、後に修正していくことは筆者の経験上では可能でした。)

また、小学校で習うローマ字(特に非ヘボン式)をしっかり習得させておくと、中学校以降の英語学習に生かせるそうです。スペルを読む時にヒントになります。そして、カタカナ言葉、特に英語からくる外来語を多く理解できるようにしておくのもいいそうです。「Dog(ドッグ)」「Doll(ドール)」を見た本校の生徒たちが、「あ、ドッグフードのドッグだ。」「ドールハウスのドール。」と話しているのを目にして、なるほどと思いました。

あなどれがたし外来語、日頃から意識して使うようにしたいものです。

(文責 小学部 椿野)

地域に在籍するきこえない・きこえにくい子どもたちへの支援について、もっと詳しくお知りになりたいことやご相談等がありましたら、本校の特別支援部(早期・幼稚部 吉田、小学部以上 田中)までご連絡ください。より良い手立てを一緒に考えていきましょう。



奈良県立ろう学校 TEL 0743-56-2921
FAX 0743-56-8833